

国語プリント No. ( )

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

# 百人一首をよむ 黄

**歌枕** 1【歌枕】古来より歌の中に詠み込まれた諸国の名所。

60 大江山（おおえやま）いくの道（みち）の遠ければまだふみもみずあまの橋立（はしだて）

小式部内侍

【歌意】大江山（おおえやま）を越えていき、生野（いの）を通つて行く道のりは遙かに遠いから、まだ天橋立（あまのはし立て）の地を踏んでもいませんし、（母からの）文（ふみ）も見てはいません。

【語句】**大江山**……京都から丹波（たんば）に越える老ノ坂の大枝山。【歌枕】

**生野**……京都府天田郡にある地名

遠ければ……遠いので

**天橋立**……京都府宮津湾の名勝。日本二景の一つ。

【歌の背景】母和泉式部が夫の任地丹後にいたとき、小式部が歌合の作者の一人に選ばれたので、中納言定頼が冗談に「母君（はなめ）が不在で心細いですね、歌の相談に使いはやりましたか、使いは帰つてきませんか」とからかったので、その袖を押さえて読んだのがこの一首である。

78 淡路島かよふ千鳥のなく声にいく夜ねざめぬ須磨の関守

源兼昌

【歌意】淡路島へ飛び交う千鳥の（もの悲しく）鳴く声で、幾晩目を覚ましたことだろうか、須磨の関の番人は。

【語句】**淡路島**……明石海峡の西南の島。【歌枕】

かよふ……飛び交う

幾夜ねざめぬ……幾晩寝覚めたのだろうか？

**須磨**……神戸市須磨区の海岸【歌枕】

関守……関所の番人

